

# 国営かんがい排水事業 芽室川西地区 令和7年7月中旬～下旬にかけて生じた 高温・干ばつの影響調査

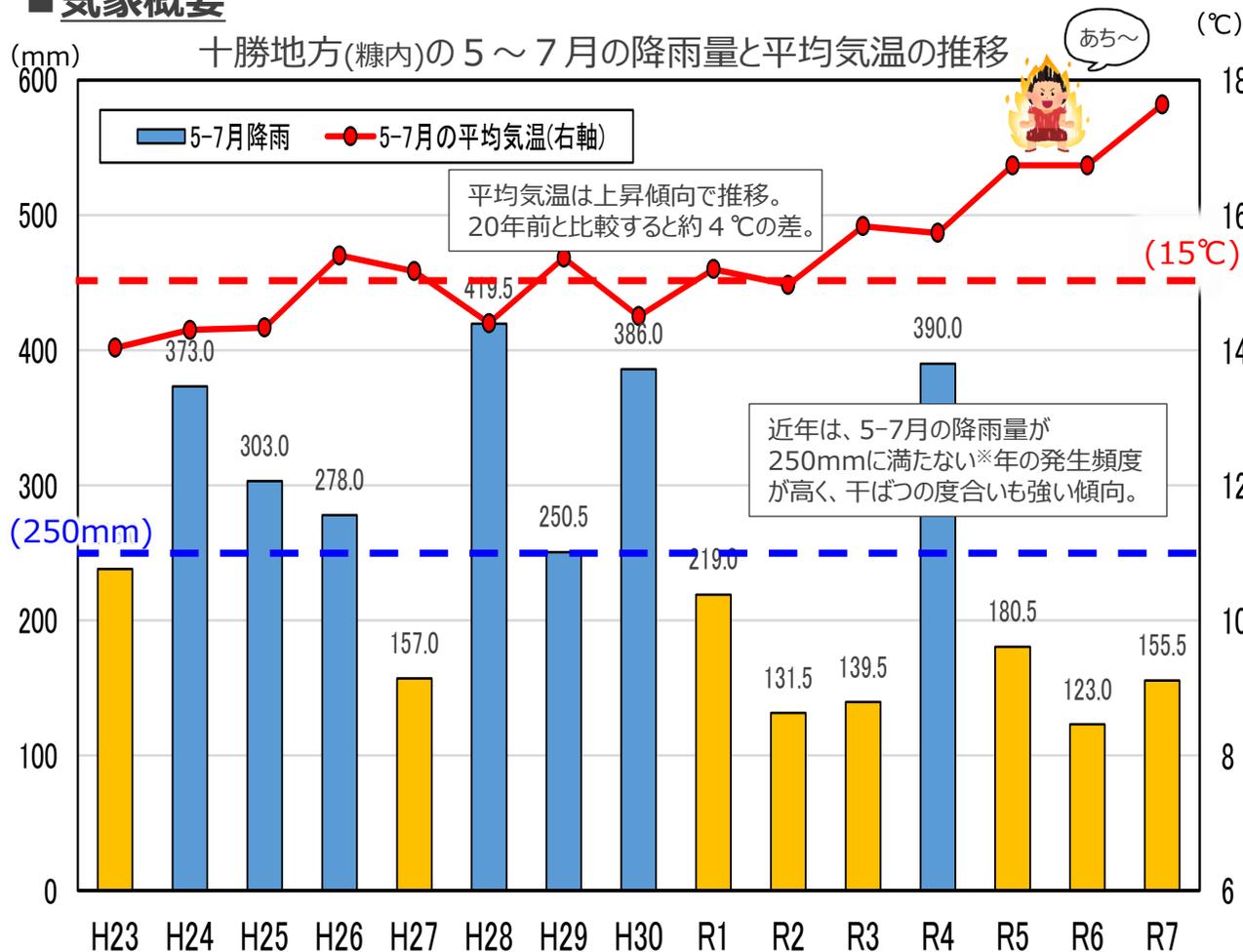
**結論：高温・干ばつ、でも安心。かんがいひとつで変わる未来！**

令和7年度  
帯広農業事務所

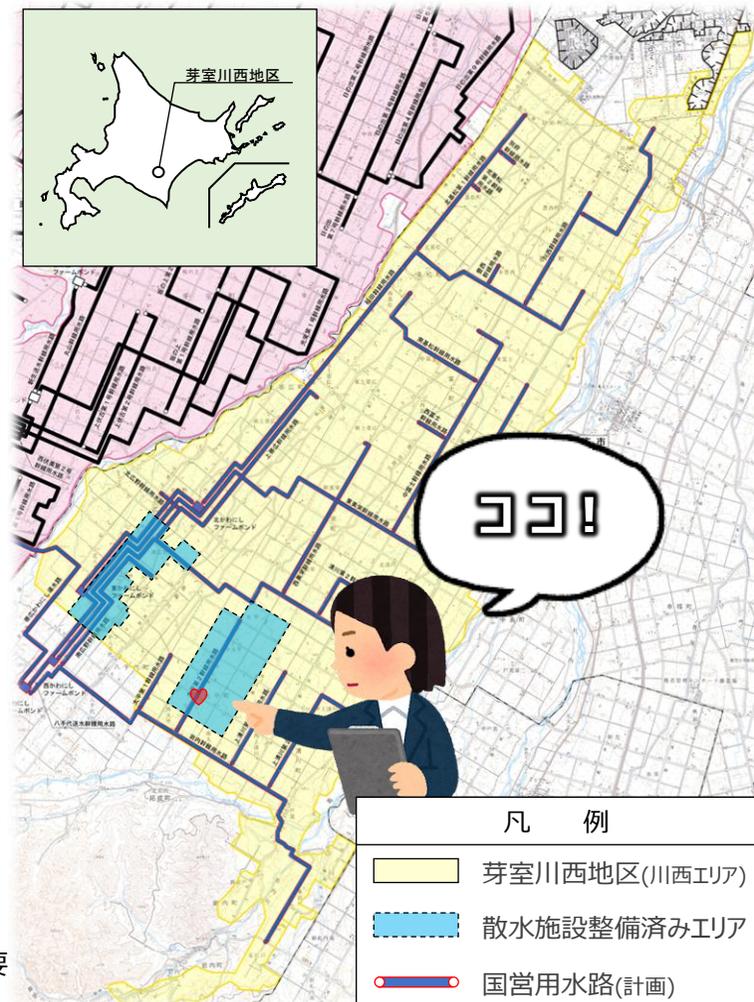
# 1. 調査の背景

- 国営かんがい排水事業を実施中の芽室川西地区を含む地域では、令和7年7月中旬から下旬にかけて、日中の気温が非常に高く(最高38度程度)、また降水が無い状況が続き、作物への被害が懸念された。
- このため、簡易的ではあるものの、かん水ほ場・無かん水ほ場を対象に馬鈴薯、ビート、大豆の収量調査を実施。

## ■ 気象概要



## ■ 調査位置



※ 北海道では、「5月～7月の平均気温が15℃以上で、降水量が250mm以下」の地域を、畑地かんがいが必要とする目安としている。  
資料：北海道における畑地かんがいの手引き (H9 北海道農政部ほか)

## 2. 調査結果

- かん水により、てん菜は増収・品質向上、大豆は増収。
- ばれいしょについては、規格品の割合が高いものの総重量でやや劣っており、かん水タイミングの検討などが今後の課題。

### ■ ばれいしょ

調査区	総重量 (g)	規格別個数割合(%)		
		規格品	小玉品	規格外品
無かん水	4,488	65.6	7.8	26.6
かん水	4,181	78.4	5.9	15.7
かん水 増分割合	<b>-7%</b>	<b>20%</b>	<b>-24%</b>	<b>-41%</b>

※規格品 (50~360g)、小玉品 (40~50g)、規格外品 (~40g)

### ■ てん菜

調査区	平均重量 (g)	平均根中糖度 (%)
かん水	746.5	15.8
かん水 増分割合	<b>29%</b>	<b>14%</b>

### ■ 大豆

調査区	総重量 (g)
無かん水	1,586
かん水	2,052
かん水 増分割合	<b>29%</b>



### 3. 受益者の声

- 今年のような猛暑・干ばつに対しては畑地かんがいが非常に効果的。
- このため、**事業効果の早期発現が強く求められている**。



※モデルほ場整備により、一部のほ場でかんがい可能となっている。

#### しかし、無かん水ほ場の実態は…

- ◆ばれいしょはかわいそうなもんで、小さくてびっくり。収量が1～2割落ちた。
- ◆小麦は暑さで生長が早く、実が成熟しきらないまま収穫時期を迎えてしまった（例年より1週間ほど収穫が早い）。結果、1～2割の減収。
- ◆無かん水の玉ねぎは途中で葉っぱを出すのをやめてしまった。そこで生長が止まり、小玉傾向。
- ◆ビート、豆はハダニ被害が深刻。ハダニは雨に弱いが、雨が全く降らなかったため品質に大きな影響があった。

## 4. かん水、無かん水ほ場の比較

➤ 生育に明らかな差が見られる。(写真は、モデルほ場の玉ねぎ) 8月19日撮影

無かん水区は十分に成長しない  
まま枯れ始め、サイズが小ぶり。

↑ かん水

↓ 無かん水

